凡例　科目区分：基幹教育必修 / 基幹教育選択 / 専攻必修 / 専攻選択 / 医療系基礎 / 卒業研究 / 保健師コース科目

再掲は薄色表示：基幹教育必修 / 基幹教育選択 / 専攻必修 / 専攻選択 / 医療系基礎 / 卒業研究 / 保健師コース科目

学年		1年生				2年生				3年生				4年生			
	学修目標	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
D. 実践	D-2. 状況判断を的確に行い、専門職として必要な科学的根拠に基づいた問題解決能力と看護実践能力を修得する。 【保健師コース：公衆衛生看護学を基盤とする個人・家族、集団、組織を対象とした看護活動の知識および実践能力を修得する。】										看護倫理	看護研究IVアドバンス 小児看護学実習 I 小児看護学実習 II 精神看護学実習 I 精神看護学実習 II 母性看護学実習 成人急性看護学実習 成人慢性看護学実習 老年看護学実習 地域・在宅看護実習	看護研究IVアドバンス 小児看護学実習 I 小児看護学実習 II 精神看護学実習 I 精神看護学実習 II 母性看護学実習 成人急性看護学実習 成人慢性看護学実習 成人看護学統合実習 老年看護学実習 地域・在宅看護実習	看護研究IVアドバンス 老年看護学実習 地域・在宅看護実習	看護研究IVアドバンス 総合実習 公衆衛生学看護学実習 I 公衆衛生学看護学実習 II	看護研究IVアドバンス 看護管理 公衆衛生看護管理論	看護研究IVアドバンス
	D-1. 看護職に期待される社会的役割について自身の見解を持ち、看護職の社会的責務と課題について説明することができる。 【保健師コース：対象の多様なニーズや健康課題の解決に応じた公衆衛生看護活動の評価や健康危機管理方法の実際について理解することができる。】										看護倫理						
C-2. 創造・評価	C-2-2. 科学的知識や方法論を学び、専門性の高い看護実践に発展させていくことができる。											医療系統合教育科目 看護研究III 看護研究III	医療系統合教育科目 看護研究III 看護研究III	医療系統合教育科目 看護研究III 看護研究III	医療系統合教育科目 看護研究III 看護研究III	クリティカルケア論 看護教育論 医療系統合教育科目 看護研究III 看護研究III	医療系統合教育科目 看護研究III 看護研究III
	C-2-1. 科学的知識や方法論を学び、看護研究に発展させていくことができる。						基礎医療統計			看護研究 I	看護研究 II	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス
C-1. 適用・分析	C-1-3. 様々な健康レベルにおける対象者のライフスタイルの変容、セルフケアの確立、危機介入、生活の質の向上に向けた援助方法を、総合的に説明することができる。								老年看護学各論 I リハビリテーション論	老年看護学各論 II 小児看護学各論 II 成人急性看護学各論 I 成人急性看護学各論 II 成人慢性看護学各論 I 成人慢性看護学各論 II 精神看護学各論 II 母性看護学各論 II 地域・在宅看護各論 I 地域・在宅看護各論 II	老年看護学各論 II 小児看護学実習 I 小児看護学各論 II がん看護論 成人急性看護学各論 II 成人慢性看護学各論 II 看護倫理 精神看護学各論 II 地域・在宅看護各論 II	老年看護学実習 小児看護学実習 I 小児看護学実習 II 成人急性看護学実習 成人慢性看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 I 精神看護学実習 II 地域・在宅看護実習	老年看護学実習 小児看護学実習 I 小児看護学実習 II 成人急性看護学実習 成人慢性看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 I 精神看護学実習 II 地域・在宅看護実習	総合実習		
	C-1-2. 看護の役割と機能を理解し、保健医療チームの一員として、状況に応じて発揮すべき能力について説明することができる。 【保健師コース：地域の関係機関と連携、協働しながら地域の健康課題に取り組む保健師の役割や求められる能力について説明することができる。】									公衆衛生看護支援論 I	公衆衛生看護支援論 I			公衆衛生看護支援論III			
	C-1-1. 人の生涯を通じて、地域の様々な場で提供される看護ケア、個人・家族・地域集団に対する健康支援技術やシステムがどのように構築されているかについて、体系的に説明することができる。 【保健師コース：公衆衛生看護活動の基盤となる理論やモデルについて理解し、対象に応じたアプローチ方法を検討、展開することが							地域・在宅看護概論 疫学	保健統計学	公衆衛生看護支援論 II 公衆衛生看護活動展開論 I	公衆衛生看護支援論 II 公衆衛生看護活動展開論 I			公衆衛生看護支援論III 公衆衛生看護活動展開論 II 公衆衛生看護活動展開論III 保健医療福祉行政論 II	公衆衛生学看護学実習 I 公衆衛生学看護学実習 II		
B. 知識・理解	B-4. 人々の生活を支える法律や制度について理解し、社会における看護職の役割について理解し、説明することができる。 【保健師コース：地域で展開される様々な公衆衛生看護活動の根拠となる法律や制度について理解し、その意義について説明することができる。】							公衆衛生看護学概論 地域・在宅看護概論	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護支援論 I 保健医療福祉行政論 I	公衆衛生看護活動展開論 I			公衆衛生看護活動展開論 II 保健医療福祉行政論 II			
	B-3. あらゆるライフステージにおける幅広い対象にあわせた看護について理解し、説明することができる。						老年看護学概論 精神看護学概論	成人看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論	母性看護学各論 I 小児看護学各論 I 精神看護学各論 I	地域・在宅看護各論 I 地域・在宅看護各論 II 成人急性看護学各論 I 成人慢性看護学各論 I 母性看護学各論 II 精神看護学各論 II	地域・在宅看護各論 II						
	B-2. 看護学の基盤となる医療系基礎的知識について理解し、説明することができる。						看護学概論 基礎看護技術学 I 基礎看護学実習 I	看護理論 基礎看護技術学 I 基礎看護学実習 I	看護情報論 看護過程論 基礎看護技術学 II 基礎看護学実習 II	看護情報論 看護過程論 基礎看護技術学 II 基礎看護学実習 II						
	B-1. 人体の構造と機能及び疾病に関する基礎的知識について理解し，説明することができる。						人体の構造と機能 I 人体の構造と機能 II 人体の構造と機能III 病原体学 生化学 公衆衛生学 母性疾病論 小児疾病論	人体の構造と機能 I 人体の構造と機能 II 人体の構造と機能III 病原体学 放射線医学技術学概論 基礎医療統計 口腔保健学 小児疾病論 精神疾病論	薬理学概論 医学総論 I 臨床医学論 I 臨床医学論 II 病理学 疫学 臨床病態学 老年保健・疾病論	薬理学概論 医学総論 II 臨床医学論 I 臨床医学論 II 保健統計学 臨床病態学						
A-3. コミュニケーション能力・異文化理解	A-3-2. 援助的な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				コミュニケーション論	基礎看護学実習 I	基礎看護学実習 I	基礎看護学実習 II 精神看護学各論 I	基礎看護学実習 II		看護倫理						
	A-3-1. アジアをはじめとする異文化に関心を持ち、国際社会の健康増進に貢献する意欲を持つことができる。	第一外国語 第二外国語	第一外国語 第二外国語	第一外国語 第二外国語	第一外国語 第二外国語			国際保健と医療	国際保健と医療								
A-2. 協働	A-2-1. 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。			課題協学科目	コミュニケーション論												
		文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 健康・スポーツ科目 総合科目	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 健康・スポーツ科目 総合科目	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 健康・スポーツ科目 総合科目	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目												
A-1. 主体的な学び	A-1-2. 生涯にわたり、看護学の本質への高い関心と探求意欲を持ち、 主体的に学修し、自己啓発に努めることができる。									看護研究 I	看護研究 II	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス	看護研究III 看護研究IVアドバンス
	A-1-1. 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 健康・スポーツ科目 総合科目 基幹教育セミナー サイバーセキュリティ科目	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 健康・スポーツ科目 総合科目	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目 健康・スポーツ科目 総合科目	文系ディシプリン科目 理系ディシプリン科目	高年次基幹教育科目	高年次基幹教育科目										
	学修目標	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
学年		1年生				2年生				3年生				4年生			
学士課程の時期区分		導入期				専門基礎期						実践・発展・統合期					
アセスメント・プラン		達成度調査（基礎的能力）				達成度調査（専門基礎的能力）						看護研究審査・国家試験受験					

学部（看護学専攻）学修目標と参照基準対応表

学修目標		文部科学省「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」	一般社団法人全国保健師教育機関協議会 「公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム」
学部（看護学専攻）	学部（保健師コース）		
A-1. 主体的な学び			
A-1-1. 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。		社会と看護学 社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。	
A-1-2. 生涯にわたり、看護学の本質への高い関心と探求意欲を持ち、 主体的に学修し、自己啓発に努めることができる。			
A-2. 協働			
A-2-1. 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。		看護実践の基本となる専門基礎知識 看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の 基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。	
A-3. コミュニケーション能力・異文化理解			
A-3-1. アジアをはじめとする異文化に関心を持ち、国際社会の健康増進に貢献する意欲を持つことができる。		看護実践の基本となる専門基礎知識 看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の 基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。	
A-3-2. 援助的な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。		多様な場における看護実践に必要な基本的知識 看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。	
B. 知識・理解			
B-1. 人体の構造と機能及び疾病に関する基礎的知識について理解し，説明することができる。		看護の対象理解に必要な基本的知識 人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。	
B-2. 看護学の基盤となる医療系基礎的知識について理解し、説明することができる。			
B-3. あらゆるライフステージにおける幅広い対象にあわせた看護について理解し、説明することができる。		看護実践の基本となる専門基礎知識 看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の 基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。	
B-4. 人々の生活を支える法律や制度について理解し、社会における看護職の役割について理解し、説明することができる。	B-4. 地域で展開される様々な公衆衛生看護活動の根拠となる法律や制度について理解し、その意義について説明することができる。	社会と看護学 社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。	社会と公衆衛生看護学 公衆衛生看護学の基盤となる学問分野の考え方・知識・技術を修得し、社会の健康課題の解決に向けてその応用について学ぶ。
C-1. 適用・分析			
C-1-1. 人の生涯を通じて、地域の様々な場で提供される看護ケア、個人・家族・地域集団に対する健康支援技術やシステムがどのように構築されているかについて、体系的に説明することができる。	C-1-1. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論やモデルについて理解し、対象に応じたアプローチ方法を検討、展開することができる。	多様な場における看護実践に必要な基本的知識 看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。	公衆衛生看護活動 地域で生活する人々の健康への支援について、対象のライフサイクルや疾病・障害の特性に対応した公衆衛生看護を実践する能力を修得する。また、健康危機管理、及び場の特性に応じた公衆衛生看護活動を理解する。
C-1-2. 看護の役割と機能を理解し、保健医療チームの一員として、状況に応じて発揮すべき能力について説明することができる。	C-1-2. 地域の関係機関と連携、協働しながら地域の健康課題に取り組む保健師の役割や求められる能力について説明することができる。	看護実践の基本となる専門基礎知識 看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の 基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。	社会と公衆衛生看護学 公衆衛生看護学の基盤となる学問分野の考え方・知識・技術を修得し、社会の健康課題の解決に向けてその応用について学ぶ。
C-1-3. 様々な健康レベルにおける対象者のライフスタイルの変容、セルフケアの確立、危機介入、生活の質の向上に向けた援助方法を、総合的に説明することができる。		多様な場における看護実践に必要な基本的知識 看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。	
C-2. 創造・評価			
C-2-1. 科学的知識や方法論を学び、看護研究に発展させていくことができる。		看護学研究 看護学研究の成果は、看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。また、社会における看護の必要性を示すとともに看護を説明することを可能にする。そのため、看護学の体系を構築する基盤となり、看護学の専門性の発展に貢献する。また、看護学研究の実践を通して、より良い看護を探究する課題解決の能力を向上させる。学士課程においては、将来的な種々の研究活動の基盤を作ることに焦点がある。	
C-2-2. 科学的知識や方法論を学び、専門性の高い看護実践に発展させていくことができる。		臨地実習 臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法のひとつである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。	
D. 実践			
D-1. 看護職に期待される社会的役割について自身の見解を持ち、看護職の社会的責務と課題について説明することができる。	D-1. 対象の多様なニーズや健康課題の解決に応じた公衆衛生看護活動の評価や健康危機管理方法の実際について理解することができる。	臨地実習 臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法のひとつである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。	臨地実習 公衆衛生看護学の実習においては、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法に関わる知識や技術を統合して実践の場に適応し、公衆衛生チームの一員として活動の一部を経験することを通して、公衆衛生看護活動を実践する上での基盤となる能力形成を行うとともに、専門職としての実践を省察し、保健師としての使命感や責任感を修得する。
D-2. 状況判断を的確に行い、専門職として必要な科学的根拠に基づいた問題解決能力と看護実践能力を修得する。	D-2. 公衆衛生看護学を基盤とする個人・家族、集団、組織を対象とした看護活動の知識および実践能力を修得する。	看護学研究 看護学研究の成果は、看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。また、社会における看護の必要性を示すとともに看護を説明することを可能にする。そのため、看護学の体系を構築する基盤となり、看護学の専門性の発展に貢献する。また、看護学研究の実践を通して、より良い看護を探究する課題解決の能力を向上させる。学士課程においては、将来的な種々の研究活動の基盤を作ることに焦点がある。	公衆衛生看護学研究 公衆衛生看護活動において必要とされる研究的な思考と知識・技術を学修し、公衆衛生看護学の発展に貢献する態度を養う。